

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・加藤	写真・後藤
山行番	NO. 1998-2		
日 時	2022年10月19日(木) 晴れ		
山 域	会津朝日岳(1624m)		
コース	赤倉沢登山口 5:50 一三吉ミチギ(水場) 一葉の高手 8:04/14 一避難小屋 8:47 一会津朝日岳 9:32/10:05 一避難小屋 10:42 一葉の高手 11:08/25 一駐車場 13:07		
標高差	上り・下り 駐車場約550m~会津朝日岳1624m=約1074m+95m		
藪漕度	上り・下り なし		
難易度	非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい		
岩場や急登が連続するハードな山は紅葉真っ最中			
参加者	後藤、加藤=2名		

白々と夜が明け始めた頃、イワナの里奥の赤倉沢登山口駐車場から身支度を整え出発。会津朝日岳は福島県南会津にある自然豊かな山。日本二百名山に数えられる名峰で、特に秋の紅葉が見事だと言う事で、はるばるやってきたが、期待を裏切らない素晴らしい紅葉を見る事ができた。



ブナ落葉

名前の由来は、朝日が最初に照らす頂きと「新編会津風土記」に書かれている。朝はまだ肌寒く、先ず駐車場から直ぐの橋を渡って登山開始。ルートはこの1本だけだ。沢沿いの道を踏み外さないよう気をつけながら進む。赤倉沢の渡渉が終わると水場の三吉ミチギ。汗が出ないので喉が乾かない。横目で素通り。これ以降、ジグザグの急登が始まる。

CLが、昨日の未丈ヶ岳の1本登りと違って、ジグザグにきってあるから有難い！と、快調に足を運ぶ。



全山紅葉

先が明るく見え始め、尾根に出そうかな？という頃、足元は赤銅色に輝くブナの葉で埋め尽くされていた。初めて見るブナの葉っぱ？ 家の方で見るブナの葉と違う。

とにかく、綺麗で形が大きく葉脈がくっきりはっきりで「私はブナの葉です」と主張しているようだった。

ブナには本種とイヌブナの2種類がある。太平洋側より日本海側が生育良好で葉が大きくなる。日本海側のブナを特に「オオバブナ」と呼んで、太平洋側の「コハブナ」と区別することもあるそうだ。では、本種とイヌブナの違いは？ 私は調べました。

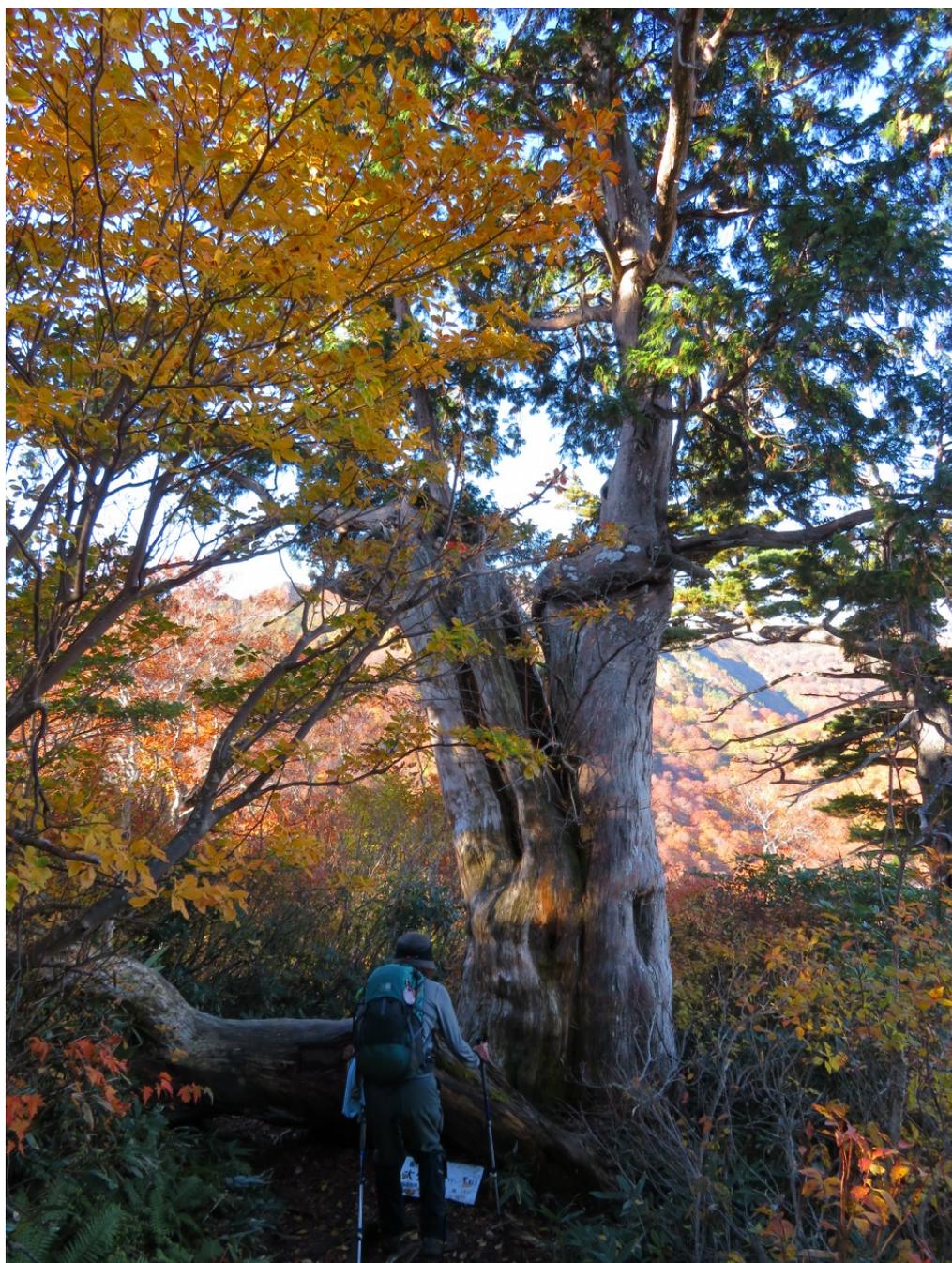
イヌブナは、ブナより劣る為、イヌがついた。葉の裏面に毛があるのでイヌがつく、という説も。又、雪が苦手らしく日本海側には分布しないともある。

では、会津朝日岳のブナは本種の「オオバブナ」だろう。調べてみるとなかなか面白い。あーあ、心の中がスッキリとした。

尚も進んでいくと「人見の松」。岩場を乗り越え尾根上に立つと、朝日を受けて木々の紅葉が目立ち始めてきた。「いいねえ！」「きれいだねえ！」の連発。一番いい時期にあたったんだと実感しながらも、これから向かう見え隠れしている朝日岳が、あまりに遠くて「辛

いなあ〜」でした。

それから尾根の登り、下りの繰り返した。途中、その中の最低コルで「田んぼ」が何か所もあり、今年初の霜と氷を発見。ぬかるんだ道に靴がズボズボはまり泥んこ状態。



大クロベ（黒檜）

そんな中、やっと熊ノ平の避難小屋（汚い？）の脇を抜けて山頂直下の登りに入る。だらだら道は苦手だが、岩場とかこういう斜面は好きだ。「行くぞお〜！」身体に一気にスイッチが入った。ゴツゴツとした急な岩場だが、随所にロープも張ってあるので安心だ。

ロープが張ってある所は、ぬかるんでドロドロなので私は岩場の背なかを登る。足場は悪いので下りには使えそうもない、振り返ると絶景だ！草紅葉の先は赤く輝く山の紅葉が先の、その又先まで延々と続いている。此処の紅葉は本当に凄い！



上部岩場

岩場を抜けて頂きに立った。CLはまだ先に続く尾根を歩いていた。えっ！此処の標高が一番高いのになぜ？

スマホを確認してみると、確かに頂上はその先に続く少し低い場所を示していた。「なんでえ～？可笑的い？」ブツブツ言いながら後をつけて正規の頂上に到着。三角点があり山頂標識があり、山名表示盤もあった。

先客が1名。頂上からの展望は言うまでもない。山並み、紅葉が素晴らしい～の一言。先日登った荒沢岳も見えた。頂上にうっすらと雪化粧だ。

今はもう鎖も撤去され、行く人もないだろう。景観を堪能したあと、少しの腹ごしらえをしていると、何人か登ってきた。みんな単独者だ。こんな山深い山に結構な年配者も来て「大丈夫かなあ」と余計な御世話だが心配になってしまった。

帰りは、早い。来る時よりも下りで観る山並みの紅葉が遥かに凄かった。一点の曇りのない赤・黄・白が陽射しに映えて輝くようだ。「人見の松」上部で、大きなカメラを葉に向けて構えている数人に出会う。NHKの人達？一週間、毎日登り降りして会津朝日岳の紅葉を撮りに来ているとか。大変な事だ。御苦労さま。

帰りは、早い。と思ったが、やっぱり遠かった。歩けど歩けど、まだ此処？みたいで、身体が連ちゃん山登りで疲れているのかなあ・・・。

新潟の山は侮れない！ 地元の愛鷹山と標高があまり変わらないのに、昨日の未丈ヶ岳もそうだけど頂上までの遠さは何なんだ！新潟の人の足の強さは計り知れない。

昨日、偶然出会った新潟の磯部さん、後藤さんと同い歳と言っていたが、足元にも及ばないと後藤さんに言わせた程の人だ。こういう山を常に歩いていけば強くなると確信した山行になった。

車に着いた時は、黙って待っていてくれた車が非常に愛おしく思えた。早く腰を下ろして座りたい！



越後駒遠望



山頂



ブナ結実



下山



NHK 取材班